



未来をつくる ソーシャルイノベーション 第2部

文・西村勇哉

暮らしの中から見つける変化の力

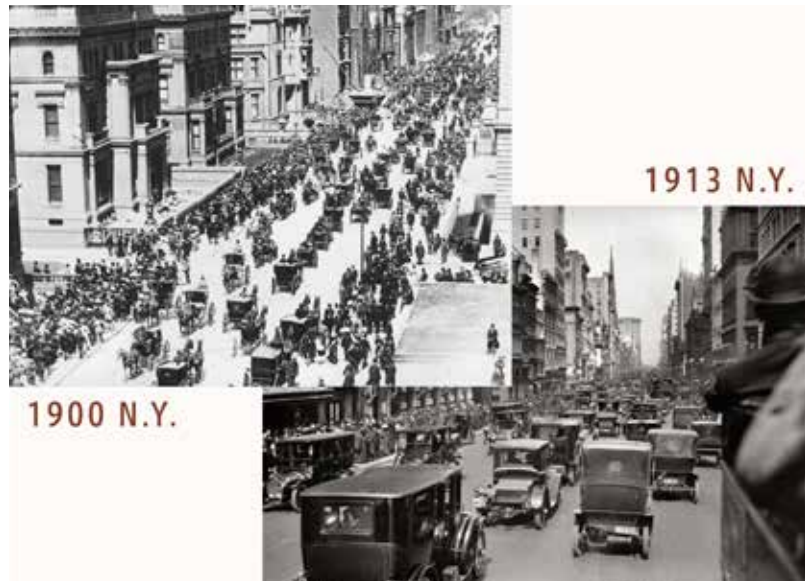
CASE: 45 自動車—暮らしのあり方を変えるテクノロジー—



アメリカ初のレンタカー事業は、フォードモデルTを使ったビジネスとして1916年に誕生し、1925年までに21州に広がっていった。

POINT!

汎用性の高いテクノロジーが社会のさまざまな側面に共に変化を起こし、共進化によって人々のライフスタイルを変えていく。



1913 N.Y.

1900 N.Y.

フォード・モデルTが発売される前のニューヨークの通りと、発売5年後の同じニューヨークの通り。

今回は、「暮らしのあり方を変えるテクノロジー」の力について、自動車の歴史を見ていきます。

世界最古の自動車は、1769年にフランスのパリで作られた時速3キロしかでない蒸気自動車でした。その後、1870年に初のガソリン自動車が生じ、1885年にゴットリーブ・ダイムラーがガソリン自動車の特許を出し、1885年にカール・ベンツが同様にガソリン自動車を製作、ベンツは初の自動車販売店を立ち上げ、自動車の歴史が始まります。

19世紀末の自動車は、手造りで高価であったうえに、蒸気自動車、電気自動車、ガソリン自動車が混在し混沌とした状況でした。また、1900年の自動車の生産台数は全世界で約1万台に過ぎません。1908年にフォードがモデルTを発売すると、自動車は爆発的に広がります。フォード・モデルTは、発売終了の1929年までに1500万7033台が販売され、世界で最も勢いよく売れた車となりました。

そして、自動車の普及は、自動車だけでなく、多くの新しい社会の変化を起こしていきます。舗装道路やガソリンスタンド、信号は自動車の広がりとともに世の中に現れてきた新しい仕組みです。また、モデルTをきっかけに自動車は一般の大衆へと広がり、人々の休日の過ごし方や生活のあり方を変えていきました。1922年には、ア



にしむら・ゆうや ●大阪大学大学院にて人間科学の修士を取得。人材育成企業、財団法人日本生産性本部を経て、2008年より開始したダイアログBARの活動を前身に2011年にNPO法人ミラックを設立。Emerging Future, we already have (すでに在る未来の可能性を実現する)をテーマに、全国横断型のセクターを超えたソーシャルイノベーションプラットフォームの構築と未来潮流に基づいた新規事業創出のためのプロジェクト運営に取り組む。
NPO法人ミラック代表理事
<http://emerging-future.org>

アメリカのカンザスシティに世界初の近代的なショッピングセンターが誕生し、その後1956年には広大な駐車場を併設した世界初の共同モール型ショッピングセンター『サウスデール・センター』がアメリカのミネアポリス郊外に造られます。また、アメリカ合衆国では1920年代に高速道路網が建設され、1925年には、世界初のモーターがロサンゼルス北方に建設されました。モーターは、長距離の自動車旅行を支える仕組みとして全米に広がっていきます。

こうした共に起こる変化を共進化と呼びます。自動車のような汎用性の高いテクノロジーが広がると、社会のさまざまな側面に影響と変化を起こしていきます。また、ショッピングモールやモーターに見られるように、共に起こる変化には自動車に関わるテクノロジーが一切使われていない、アナログなものも多くあります。自動車は人々の移動だけでなく、暮らしのあり方を大きく変えたテクノロジーでした。